

工具とジャッキ	144
格納場所	144
工 具	144
ジャッキ	145
パンクの処置	146
スペア・タイヤ	146
タイヤ交換	147
タイヤ・チェーンの装着	151
万一のときの処置	154
故障したら	154
夜間、休日の修理連絡先	154
走行中、エンジンが停止したときは	154
走行中、車体床下に強い衝撃を受けたときは	154

いざ！というときのために (故障の予防と緊急時処理法)

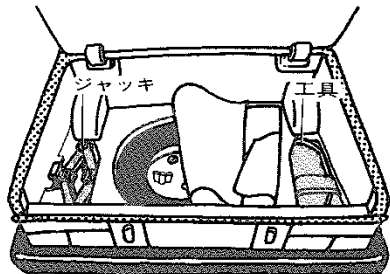
エンストして始動できなくなったときは	155
保安炎筒の使いかた	155
故障したときの応急処置	156
バッテリーあがりの処置	156
オーバー・ヒートの処置	157
けん引のしかた	157
ヒューズについて	159
ヒューズ・ボックス	159
ヒューズの交換	159
サーキット・ブレーカー	160
電球について	163



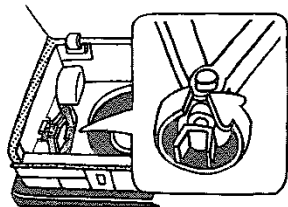
工具と ジャッキ

■ 格納場所

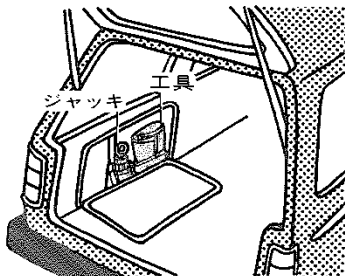
セダン/ハードトップ



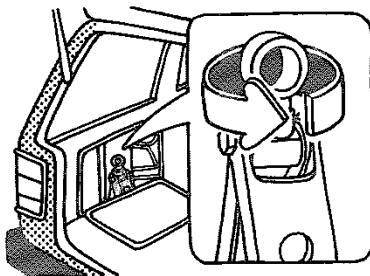
1. トランク左右のカバーの下に格納されています。
2. ジャッキは下図のようにすると取り出せます。



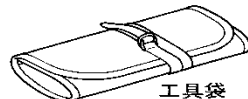
ワゴン/バン



1. 荷室左側のカバー内に格納されています。
2. ジャッキは下図のようにすると取り出せます。



■ 工具



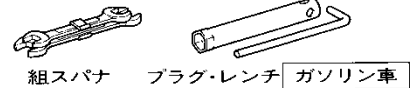
工具袋



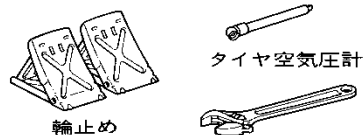
ドライバー
ホイール・ナット・レンチ (サン・ルーフ付き車)



プライヤー ⊕ ⊖ 差し替え式ドライバー

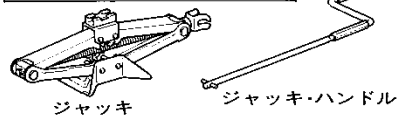


組スパナ プラグ・レンチ **ガソリン車**

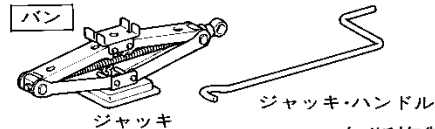


輪止め タイヤ空気圧計

セダン/ハードトップ/ワゴン



ジャッキ ジャッキ・ハンドル



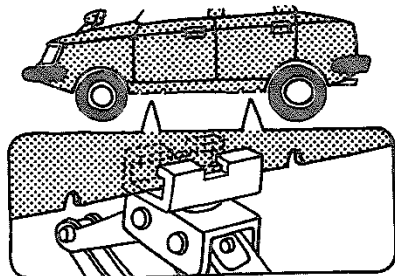
ジャッキ ジャッキ・ハンドル

■ジャッキ

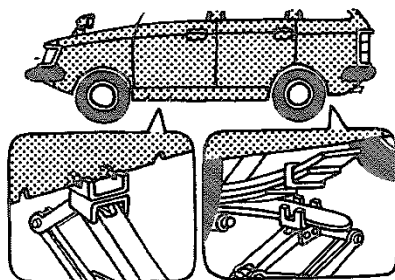
タイヤ交換およびタイヤ・チェーンを装着するときに使用します。

▶ジャッキをセットする位置

セダン/ハードトップ/ワゴン

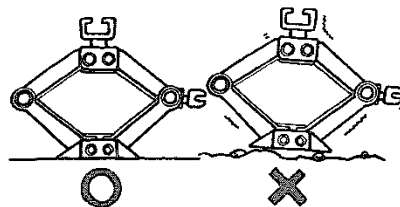


バン



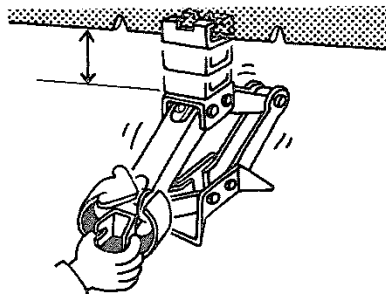
▶ジャッキのかけかた

1. ジャッキを地面の平らな固くて安定できるところにセットします。

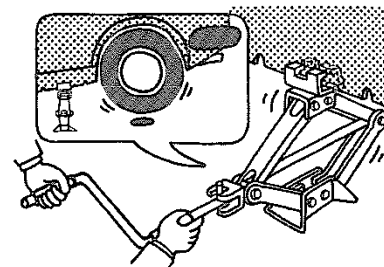


★人や荷物を車からおろしてください。

2. ジャッキを手で回して、ジャッキ・セット位置まで上げます。



3. ジャッキが確実にジャッキ・セット位置にかかっていることを確認し、ジャッキ・ハンドルを使用して、タイヤが地面から少しはなれるまでジャッキ・アップします。



ジャッキ・アップしたら車の下には絶対もぐらないでください。万一、ジャッキがはずれると大変危険です。

パンクの処置

★作業をするとき車体端部などでケガをしないように注意してください。

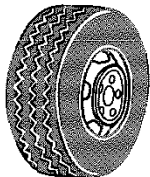
★パンクした場合に、エアゾール製品の補修剤を使用したときは、早目にパンク修理してください。

■ スペア・タイヤ

▶ 応急用タイヤ

セダン/ハードトップ

標準タイヤ



応急用タイヤ



タイヤがパンクしたとき、一時的に使用するタイヤです。

★この応急用タイヤは標準タイヤより空気圧が高く、また直径がやや小さくできています。したがって、この応急用タイヤをご使用される場合は次の注意事項をお守りください。

●この応急用タイヤとホイールはすべてマークⅡの専用品です。他のタイヤやホイールと組み合わせたリマークⅡ以外の車に使用しないでください。

●応急用タイヤの空気圧はときどき点検してください。

空気圧：4.2kg/cm²(冷間時)

●応急用タイヤを装着した場合は、100 km/h以下で走行し、できるだけ早く標準タイヤに交換してください。

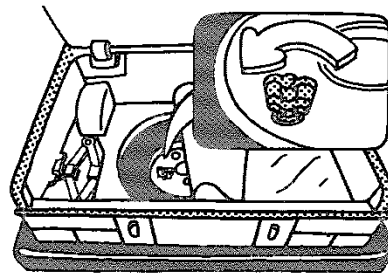
●雪道、凍結路では後輪に応急用タイヤを使用しないでください。後輪がパンクした場合は前輪を交換してください。

●応急用タイヤを装着した場合、タイヤの直径が小さいため、車高が少し低くなりますので、突起物などを乗り越えるとき標準タイヤ装着時と同じ感覚で運転しないよう注意してください。

●応急用タイヤにタイヤ・チェーンを装着しないでください。後輪がパンクした場合は前輪と交換してタイヤ・チェーンを装着してください。

▶ 格納場所

セダン/ハードトップ

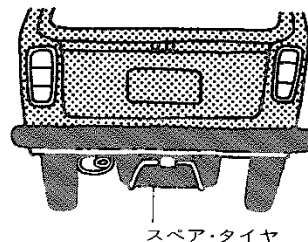


トランクに格納してあります。

1. 蝶ネジを左に回して取り出します

ワゴン/バン

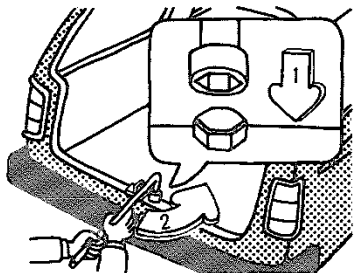
荷台床下部に格納してあります。



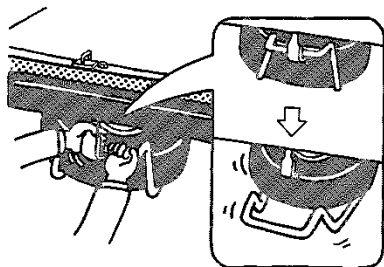
■ タイヤ交換

▶ 準備

1. ホイール・ナット・レンチで床上のボルトを十分ゆるめます。

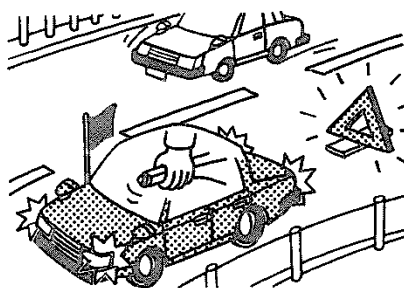


2. スペア・タイヤ格納具を少し持ち上げて、フックからはずします。

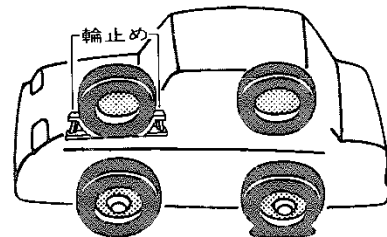


3. 格納具を足の上などに落とさないように注意して、地面におろし、スペア・タイヤを取り出します。

1. 交通のじゃまにならず、安全に作業ができる平らな場所に車を止めます。
2. 非常点滅灯を点滅させ、人や荷物をおろし、停止表示板を使用します。
3. 駐車ブレーキをかけます。

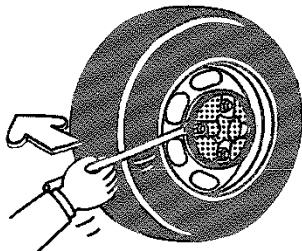


4. 工具、ジャッキを取り出します。
5. 左側パンク時には右側前後のタイヤ、右側パンク時には左側前後のタイヤに輪止め（とう載工具に含まれています）をします。



6. スペア・タイヤを取り出します。（146ページの「スペア・タイヤ」の項目を参照してください。）

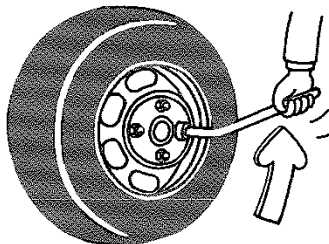
7. ホイール・キャップ, センター・キャップなどを取りはずします。ホイール・ナット・レンチの柄の先を使うと楽にははずれません。直接手をかけて取ると指をケガすることがありますので注意してください。



- (※1) 樹脂ホイール・キャップ付き車は150ページを参照してください。
- (※2) アルミ・ホイール装着車は150ページを参照してください。

▶ ジャッキ・アップ

1. ジャッキをセットします。
(145ページの「ジャッキ」の項目を参照してください)
2. ホイール・ナット・レンチでナットを左に回し、手で回るくらいまでゆるめます。



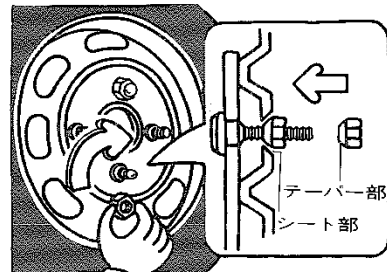
3. 車をタイヤと地面とが、少しはなれるまでジャッキ・アップします。



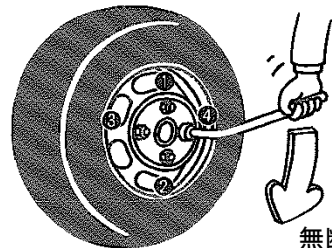
万一、ジャッキがはずれると大変危険です。ジャッキ・アップしたら車の下には絶対もぐらないでください。

▶ タイヤ交換

1. ナットをはずし、タイヤを取り替えます。
2. ナットのテーパー部がホイール穴のシート部に軽く当たり、タイヤがガタつかない程度までナットを右に回して仮り締めします。



3. ジャッキを下げた図の順序で2～3度にわたり、レンチを使用して手で十分締め付けます。

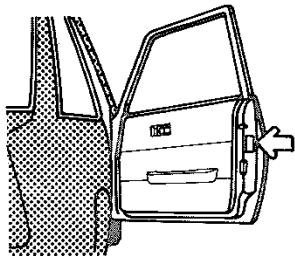


無断複製禁止

★注意

レンチを足で踏んだり、パイプなどを使用して必要以上に締め付けないでください。

- ホイール・キャップやセンター・キャップなどを取り付けます。タイヤのバルブ（空気口）に、ホイール・キャップの穴を合わせてください。
- 取り付けたタイヤの空気圧を調整します。
(図に示す運転席側ドアに貼られている「タイヤ空気圧」の表を参照してください。)



★注意

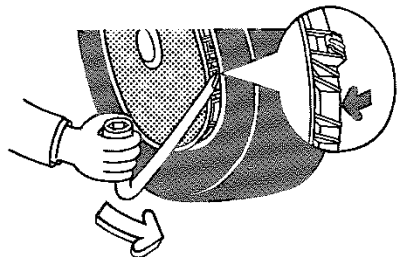
- やむをえず未調整のまま走行するときはひかえめな速度で走行してください。
- 空気圧が低いまま走行を続けると、高速走行時タイヤが疲労しバースト（破裂）するおそれがあります。チューブレス・タイヤの場合はタイヤとリムの密着が悪くなり空気が漏れやすくなります。
- 工具、ジャッキ、タイヤを片づけます。タイヤを格納するときは確実に固定してください。
- パンク時に限らず、タイヤを脱着したときは、タイヤを取り付けて、1000km走行後、再度ホイール・ナットを締め付け、ゆるみがないことを点検してください。

★注意

- タイヤ交換後、走行中ハンドルや車体に振動が出た場合はタイヤのバランスの点検をトヨタ販売店で受けてください。
- タイヤは、必ず指定サイズ（運転席側ドアに貼られているタイヤ空気圧の表をご覧ください。）、同一種類のタイヤを装着してください。指定外のサイズ、異なった種類のタイヤを個々に使用することは車の安全走行に悪い影響をおよぼしますので、絶対にさけてください。

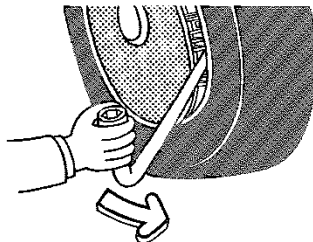
▶ 樹脂ホイール・キャップの取りはずしかた

1. ホイール・ナット・レンチの先端を差し込んで、すき間をつくりま



2. ホイール・ナット・レンチの先端を差し込んでホイールとキャップの間にホイール・ナット・レンチが十分はいるまでタイヤ側にこじってください。

3. ホイール・ナット・レンチを差し込みタイヤ側に強くこじれば、はずれます。

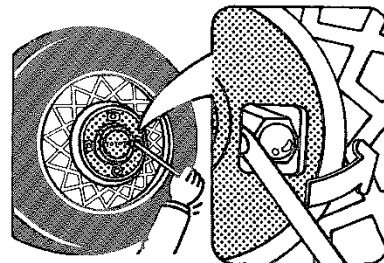


★直接手をかけて取ると指にケガをすることがあります。

★ホイール・ナット・レンチ以外は使用しないでください。

▶ アルミ・ホイール装着車

〈センター・キャップの取りはずしかた〉

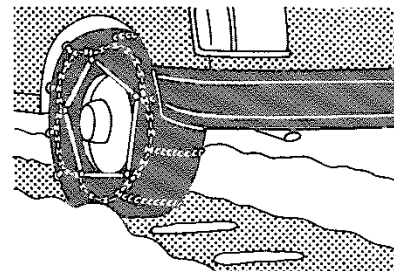


ホイール・ナット・レンチの柄の先をホイール・キャップの穴に差し込み、ホイール・ナットの頭部を支点にして矢印の方向にこじると楽にはずせます。

★直接手をかけて取ると指にケガをすることがあります。

★ホイール・ナット・レンチ以外は使用しないでください。

タイヤ・チェーンの装着



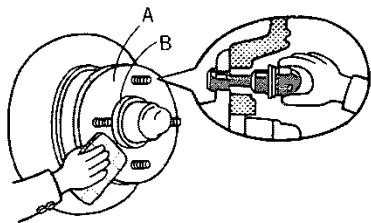
★タイヤ・チェーンは後2輪に取り付けます。

★作業をするとき車体端部などでケガをしないように注意してください。

★タイヤ・チェーンはタイヤ・サイズに合ったトヨタ純正品または次ページ指定サイズのものを使用してください。

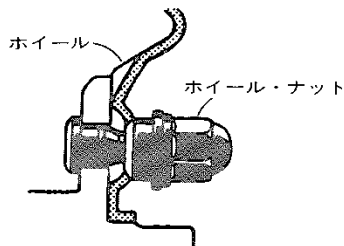
＜アルミ・ホイールの取り扱い＞

1. 取りはずしたホイールを直接地面に置くとホイール面を傷つけるおそれがあります。
2. バランス・ウエイトおよびナットはトヨタ純正のアルミ・ホイール専用品をお使いください。
3. 傷、変形のあるアルミ・ホイールは再使用しないでください。
4. アルミ・ホイールを再び車両に取り付けるとき図のA、B部のよごれをきれいにふいてからBの部分を確実にはめ、ホイール・ボルトが取り付け穴の中心にくるようにして、ホイール・ナットの座金がホイールに当たるまで手で締めてください。



5. ホイール・ナットを締めすぎないように注意してください。
6. ホイールに傷をつけるおそれがありますので、タイヤ・チェーンを装着しないでください。雪路走行の予定があるときはスチール・ホイールに付け替えてください。取り付ける場合、ホイール・ナットは下図のように取り付けてください。

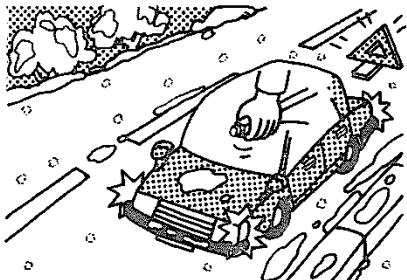
スチール・ホイール装着時



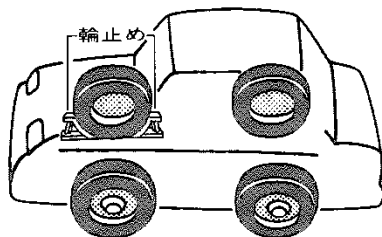
タイヤ・サイズ	指定サイズ(JIS表示)
6.45-14-4 PRLT	4 5 1 9 1 A
175 S R14 185/70 S R14 6.95-14-6 PRLT 175R14-6 PRLT	4 5 1 9 1
195/70H R14	4 5 1 9 2

▶ 取り付けかた

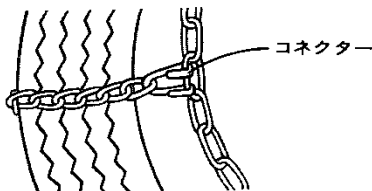
1. 交通のじゃまにならず、安全に作業ができる平らな場所に車を止めます。
2. 非常点滅灯を点滅させ、人や荷物をおろし、停止表示板を使用します。
3. 駐車ブレーキをかけます。



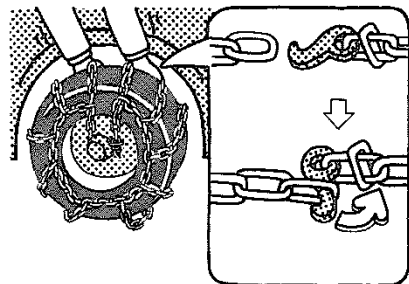
4. 工具、ジャッキを取り出します。
5. 左側チェーン取り付け時には右側前後のタイヤ、右側チェーン取り付け時には左側前後のタイヤに輪止め（とう載工具に含まれています）をします。



6. 後輪をジャッキ・アップします。（145ページの「ジャッキ」の項目を参照してください。）
7. コネクターの折り曲げを外にしてタイヤを回しながらチェーンをかぶせます。

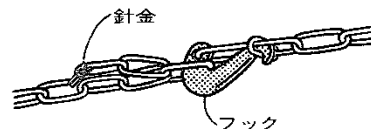


8. チェーンの両端をいっぱい引っ張って内側のフックを、次に外側を連結します。

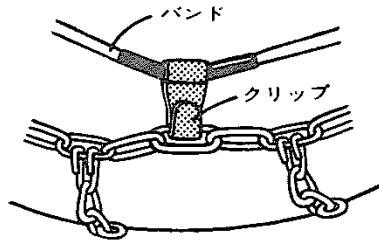


★内側のフックはチェーンのいちばん端と連結してください。

9. 余ったチェーンは車体に当たるのを防止するために図のように針金で結びます。



10. チェーン・バンドはクリップの爪を外向きにし、チェーンにかけます。



11. ジャッキをおろし輪止めをはずします。
12. 2～3分走行後、チェーンのゆるみ、はずれなどが無いことを確認してください。

★走行中タイヤ・チェーンが切れたり、一部はずれたりした場合は、車体側に当たり悪影響をおよぼしますのでただちに処置してください。

★ホイール・キャップ付き車の場合ホイール・キャップに傷がつくおそれがありますので、タイヤ・チェーンを装着する際には、ホイール・キャップをはずしてください。

★アルミ・ホイール装着車はホイールに傷をつけるおそれがありますので、タイヤ・チェーンを装着しないでください。雪路走行の予定があるときはスチール・ホイールに付け替えてください。

(150ページの「アルミ・ホイール装着車」の項目を参照してください。)

▶取りはずしかた

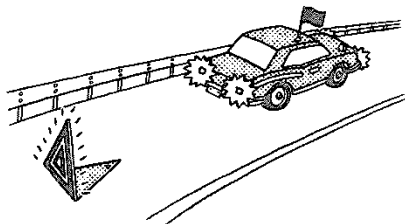
1. チェーン・バンドをはずし、針金を取り、フックは内側から先にはずします。
2. 車を少し動かし、チェーンを取り出します。



1. タイヤ・チェーン購入時は一度装着をし、長すぎる場合は切って調節してください。
2. タイヤ・チェーンを装着した場合は、次の速度で走行してください。
雪路、凍結路30km/h以下
3. 乾燥路面でのタイヤ・チェーンの装着はチェーンの寿命を短くしますので、できるだけさけてください。
4. 前輪にはタイヤ・チェーンを装着することはできません。

万一のときの 処置

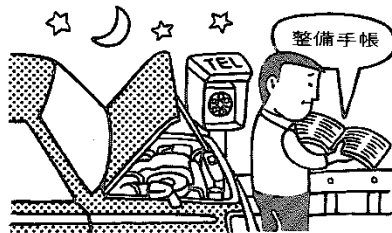
■故障したら



1. 車を路肩に寄せ非常点滅灯を点滅させるか、赤旗などを表示します。
 2. 高速道路や自動車専用道路では、車両後方に停止表示板を置いてください。
法律で義務づけられています。
- ★非常電話を利用する場合などは、路肩を歩くよう心がけてください。

■夜間、休日の修理連絡先

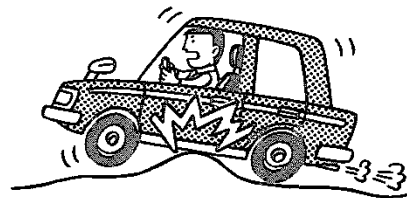
“整備手帳”巻末のトヨタ・サービス網をご覧ください。



■走行中、エンジンが停止したときは運転操作に変化が生じますので、次の方法で車を安全な場所に停止してください。

1. ブレーキ倍力装置（ペダル踏力軽減装置）付き車
ブレーキ倍力装置が作用しなくなりますので、ブレーキ・ペダルを強く踏んでください。
2. パワー・ステアリング装置（ハンドル操作力軽減装置）付き車
パワー装置が働かなくなりますので、ハンドル操作が重くなります。ハンドルを強く操作してください。

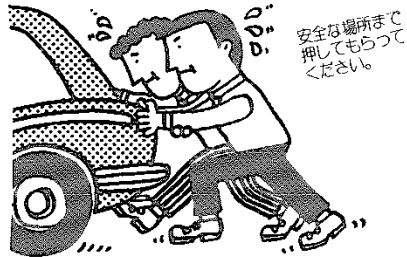
■走行中、車体床下に強い衝撃を受けたときは



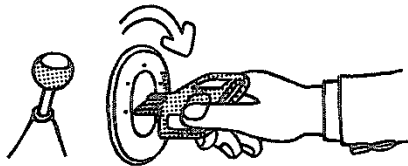
ただちに車を止め、ブレーキ液の漏れや損傷を確認してください。
損傷がひどい場合はトヨタ・サービス工場での点検を受けてください。

■エンジンを始動できなくなったときは

1. 付近に人がいる場合は安全な場所まで押してもらってください。



2. マニュアル・トランスミッション車はチェンジ・レバーの位置をセカンドまたはサードに入れクラッチを踏まずにエンジン・スイッチをSTARTの位置で保持すれば車を動かすことができます。

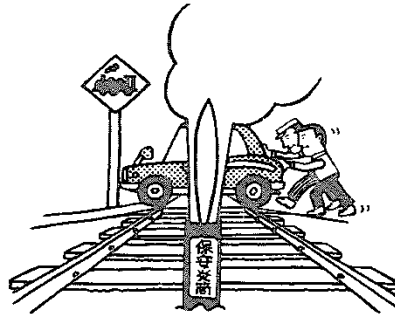


セカンドまたはサードに入れてスターターを回します。

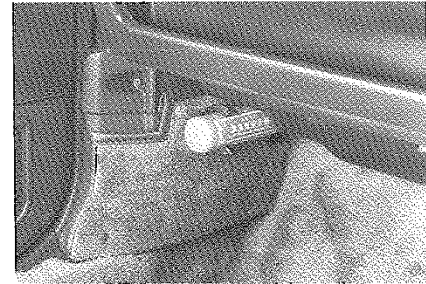
また平坦な路の場合はトップにすると早く抜け出せます。

オートマチック・トランスミッション車はエンジン・スイッチで車を動かすことができません。

3. 踏切内で動かなくなり脱輪などすぐ動かせない場合は、ただちに踏切の非常ボタンを押してください。
- ★電車が来そうになったり緊急を要するときは保安炎筒で合図してください。



■保安炎筒の使いかた



踏切内での故障など、非常時に使用します。

1. グローブ・ボックス左下部に備え付けてあります。
2. 発炎時間は約5分間です。使用方法は保安炎筒のラベルに表示されています。よく読んで万一に備えてください。
3. 有効期間はラベルに表示してあります。有効期間のきれる前にトヨタ販売店でお求めのうえ、交換しておいてください。



1. お子様にはさわらせてないでください。
2. 非常信号用としてのみご使用ください。
3. 使用中は筒先を顔や体に向けたり近づけたりしないでください。やけどの危険があります。
4. 発炎時間は約5分ですので、非常点滅灯を併用するようにしてください。

故障したときの 応急処置

■ バッテリーあがりの処置

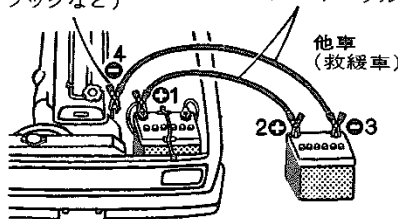
バッテリーあがりによりエンジン始動ができない場合、ブースター・ケーブルがあれば、他車のバッテリーを電源としてエンジンを始動することができます。

★救援車は必ず12Vのバッテリーが付いている車を使用してください。

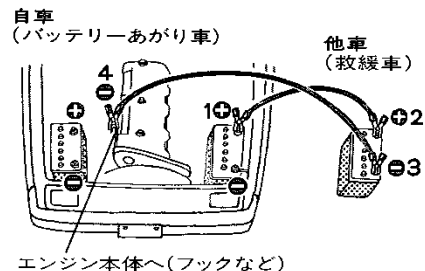
1. ブースター・ケーブルを図の番号の順序に接続します。

⊕⊖を間違えないでください。

自車
(バッテリーあがり車)
エンジン本体へ
(フックなど) ブースター・ケーブル 他車
(救援車)



ディーゼル車でバッテリーが2個の場合



エンジン本体へ(フックなど)

★寒冷地向けのディーゼル車のバッテリーは2個ですが、24Vではありません。救援車は、必ず12V車を使用してください。

★バッテリーとバッテリーを直接接続すると、バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあります。④の接続はバッテリーからはなれたエンジン本体にしてください。

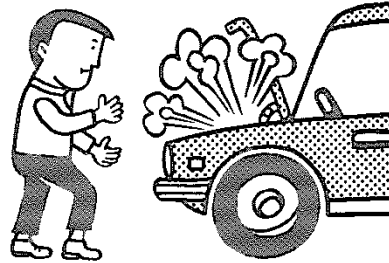
2. 接続後、他車のエンジンを始動させ回転数を少し高目にしておきます。

3. 自車のエンジンが始動したら、取り付けたときの逆の順序でブースター・ケーブルを取りはずします。バッテリーはすぐにガソリン・スタンドやトヨタ・サービス工場で完全充電してください。

★注意

1. 絶対に押しがけによる始動はやめてください。
2. ケーブル接続の際には、⊕と⊖端子を絶対に接触させないでください。
3. ケーブルが冷却ファンやベルトに巻き込まれないように接続には十分注意してください。

■オーバー・ヒートの処置

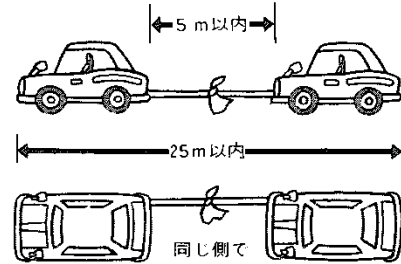


1. 安全な場所へ車を止めてください。
2. エンジンをかけたままで、ボンネットをあけ、風通しをよくします。
3. 水温計の針が下がってきたら、エンジンを止めます。
4. エンジンが十分に冷えてから、冷却水の有無、Vベルトのゆるみを点検します。

★注意

あわててラジエーター・キャップをはずすと、冷却水には圧力がかかっていますので、蒸気や熱湯が吹き出して思わぬやけどをすることがあります。

■けん引のしかた

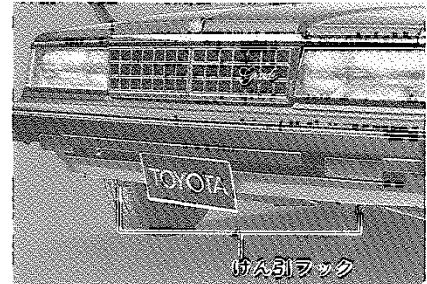


自車より重い車は
さけてください。



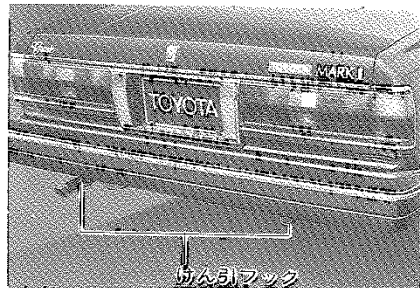
▶ロープをかける位置

〈フロント側〉



<リヤ側>

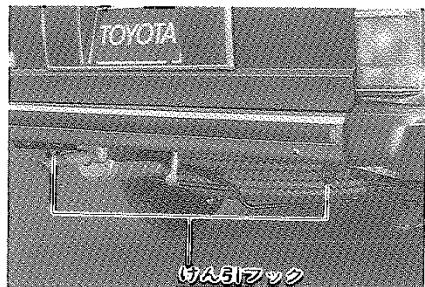
セダン/ハードトップ



ワゴン

右側のフックはセダン、左側のフックはバンと同じ位置にあります。

バン



けん引車は急発進、急停車をしないようにし、けん引される車はけん引車の

制動灯に注意し、常にロープをたるませないように気をつけてください。



1. けん引される車は、下記事項を厳守してください。

- チェンジ・レバーをⓂの位置にする。
- エンジン・スイッチをACCまたはONにする。
- けん引される速度は30km/h以内（オートマチック・トランスミッション車のみ）
- けん引される距離は80km以内（オートマチック・トランスミッション車のみ）

2. エンジンが停止していると、いつもよりブレーキの効きが悪くなります。

3. パワー・ステアリング（ハンドル操作力軽減装置）付き車はハンドル操作が非常に重くなります。

できる限りエンジンを始動してけん引してください。

4. 長坂路を下るときはブレーキが過熱し効かなくなるおそれがあります。レッカー車にけん引してもらってください。

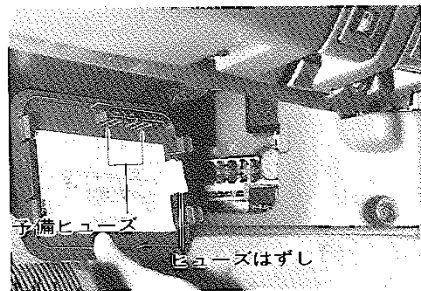
5. 次の場合はトヨタ販売店にご連絡ください。

- エンジンが回っているのに車が動かない、または異常な音がする。
- オートマチック・トランスミッション・オイルがない。

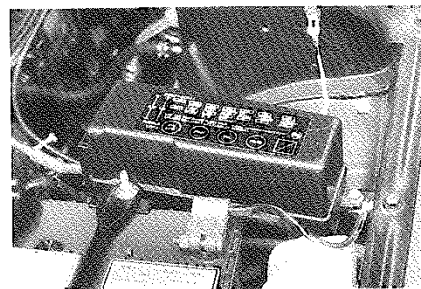
ヒューズ について

■ヒューズ・ボックス

▶運転席足元ヒューズ・ボックス



▶エンジン・ルーム内ヒューズ・ボックス



ヒューズ・ボックスは運転席足元と、エンジン・ルーム内にあります。

運転席足元のヒューズ・ボックスの中には、ヒューズおよびサーキット・ブレーカーがあります。ヒューズおよびサーキット・ブレーカーの受け持っている装置は161、162ページの表を参照してください。

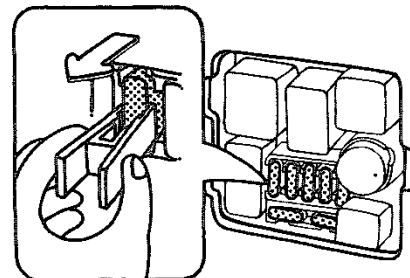
★エア・コンディショナー、シート・ヒーター、フォグ・ランプが作動しないときは、トヨタ・サービス工場へご連絡ください。

■ヒューズの交換

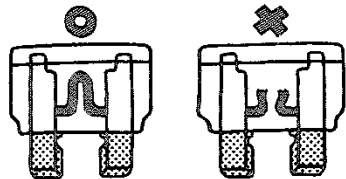
各ヒューズの受け持っている装置が作動しないときは、ヒューズ切れが考えられます。そのときは、次のように処置してください。

▶ヒューズ切れ

1. エンジン・スイッチをLOCKの位置にします。
2. ヒューズにヒューズはずしを差し込んで引き抜いてください。
(運転席足元ヒューズ・ボックスのカバーにヒューズはずしがついています。)



3. ヒューズが下図の右側のような状態であれば、ヒューズ切れです。予備ヒューズと交換してください。

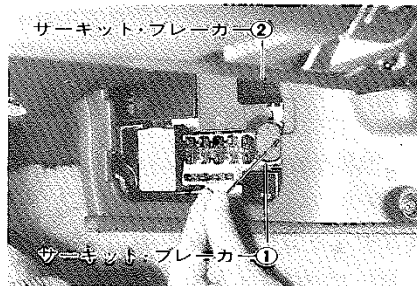


★注意

1. 取り付けられているヒューズと同じヒューズを使用してください。針金、銀紙などを使用すると電線の過熱焼損の原因になります。
2. 取り替えてもまたヒューズが切れる場合は点検を受けてください。

■ サークット・ブレーカー

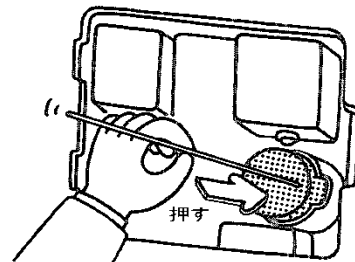
(装置を保護するため、電流が流れすぎたとき、電流をしゃ断する装置)



サーキット・ブレーカー①

▶ サークット・ブレーカー①の受け持つ回路の装備品(リヤ・ウィンドウ・ガラス曇り取り装置)が作動しないとき

1. エンジン・スイッチをLOCKの位置にします。
2. サークット・ブレーカーの穴に軽く針金をカチッという音のする位置まで差し込みます。

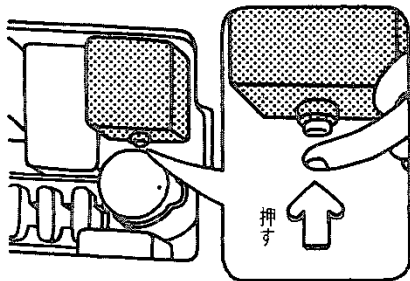


3. これでサーキット・ブレーカー①の回路が復帰します。

★マッチ棒など折れやすい物は使用しないでください。

▶ サークット・ブレーカー②の受け持つ回路の装備品（電動ウインドウ、電磁式ドア施錠装置、サン・ルーフ）が作動しないとき

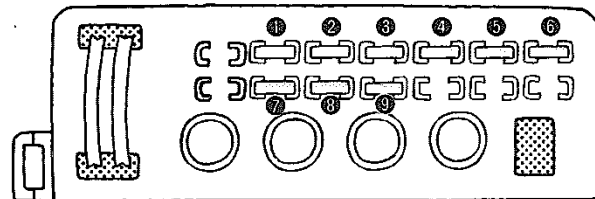
1. サークット・ブレーカーのボタンを押します。



2. これでサーキット・ブレーカー②の回路が復帰します。

★以上の操作をしても、装備品が作動しないときや、サーキット・ブレーカーの回路が再び切れる場合は、すぐにトヨタ・サービス工場での点検を受けてください。

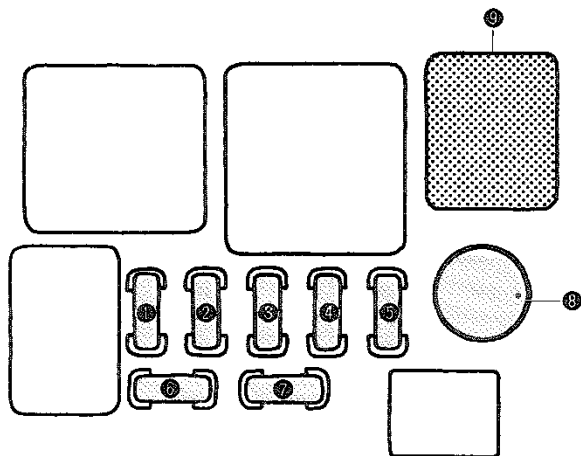
エンジン・ルーム内ヒューズ・ボックス



<ヒューズの受け持つ装置>

①	チャージ	7.5 A	電熱チョーク、排気コンピューター
②	エンジン	15 A	ボルテージ・レギュレーター オルタネータ
③	ハザード、ホーン	15 A	警音器、非常点滅灯
④	テール・ランプ	15 A	尾灯、番号灯、車幅灯、計器照明、ラジオ照明、ヒーター照明、シガレット・ライター照明、グローブ・ボックス・ランプ、チェンジ・レバー位置表示、時計照明
⑤	ヘッド・ランプ(右)	15 A	前照灯 (右側)
⑥	ヘッド・ランプ(左)	15 A	前照灯 (左側)
⑦	E F I	15 A	E F I コンピューター フューエル・ポンプ
⑧	ワイパー	20 A	ワイパー&ウォッシュャー 前照灯クリーナー
⑨	ストップ	15 A	制動灯、オーバードライブ作動表示灯 駐車灯

運転席足元ヒューズ・ボックス



(注) 予備ヒューズは運転席足元ヒューズ・ボックスのカバーに取り付けられています。

<ヒューズの受け持つ装置>

①	ターン	7.5 A	方向指示灯表示灯
②	エレクトロニクス リヤ・ワイパ	15 A	オーバードライブ オート・ドライブ, ESC リヤ・ワイパー&ウォッシャー
③	メータ	7.5 A	警告灯類, 計器, 後退灯 速度警報ブザー, 排気温警告灯
④	ルーム・ランプ	5 A	室内灯, 時計, 電動フェンダー・ミラー, ト ランク灯, クルーズ・コンピューター, 半 ドア警告灯, スポット・ライト, ドア・キー 照明, エンジン・キー照明, バック・ドア
⑤	イグニッション	7.5 A	充電警告灯, EFIメイン・リレー 予熱プラグ, 燃料止めソレノイド
⑥	ラジオ	7.5 A	ラジオ, ステレオ
⑦	ライター	15 A	シガレット・ライター 電動アンテナ

<サーキット・ブレーカーの受け持つ装置>

⑧	リヤ・ウインドウ・ガラス曇り取り装置
⑨	電動ウインドウ, 電磁式ドア施錠装置, サン・ルーフ

電球について

■電球について

▶フロント側

前照灯

セダン/ハードトップ/ワゴン

白熱灯 65/60W

ハロゲン* 60/55W

バン

白熱灯 (外側) 37.5/50W

(内側) 37.5W

車幅灯/駐車灯 5W

フロント方向指示灯(非常点滅灯) 23W

サイド方向指示灯(非常点滅灯) 5W

▶リヤ側

方向指示灯(非常点滅灯) 23W

制動灯, 尾灯/駐車灯 21/5W

後退灯 23W

番号灯

セダン/ハードトップ 5W

ワゴン/バン 7.5W

▶室内

室内灯 10W

フロント・スポット・ライト 8W

リヤ・スポット・ライト 10W

エンジン・キー照明灯 1.4W

グローブ・ボックス・ランプ 1.2W

★電球の交換は必ず同容量のものにしてください。

★ハロゲン・ランプ(ヨウ素入り電球)は使用時電球が高温になるため、表面に油などが付着すると寿命が短くなります。

電球交換時に手などがガラス部に触れないように注意してください。

